

平成27年12月14日

関係機関長および関係各位

京都大学防災研究所長

寶 馨

教員の公募について

拝啓

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当研究所は「災害に関する学理の研究及び防災に関する総合研究」を目的とする全国共同利用の研究所であり、5研究部門・6附属研究センターによって構成されています。平成22年度より、「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」に認定され、より広範な共同利用・共同研究を推進しております。

このたび、下記の通り教員を公募することになりました。つきましては、ご多用のところ、まことに恐縮ではございますが、関係各位の皆様方にご連絡いただくとともに、適任者の応募についてよろしくお取り計らい下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. **職 種**： 教授
2. **募集人員**： 1名
3. **勤務場所**： 総合防災研究グループ 巨大災害研究センター 災害情報システム研究領域
(所在地：宇治市五ヶ庄)
4. **職務内容**：
総合減災システムの確立をめざして、巨大災害の被害の軽減に資する災害情報に関する研究を理論的かつ実践的に推進する。とくに、情報システム科学の立場から、災害発生前、発生時、および発生後の社会の対応を情報処理過程としてとらえて、効果的な被害軽減、災害対応、復旧・復興を可能にするための情報システムの開発と評価に関する研究を、学際的かつ国際的に進める。また、京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻の教育を担当する予定である。
5. **資格等**： 博士の学位を有すること。
国籍は問わないが、日常的に日本語が使えること。
6. **採用予定日**： 選考後できるかぎり早い時期
7. **任 期**： なし
8. **勤務形態**： 専門業務型裁量労働制（週38時間45分相当、1日7時間45分相当）
休日：土・日曜日、祝日、年末年始、創立記念日及び夏季休業日
9. **給与・手当等**： 本学支給基準に基づき支給
10. **社会保険**： 文部科学省共済組合、雇用保険及び労災保険に加入

1 1. **応募方法**： 次の (1)~(6) 各一式

- (1) 履歴書
- (2) 研究業績一覧（査読付き論文とその他の論文、著書、解説、報告などに区分けしたもの）
- (3) 主要論文別刷（コピー可）5編
- (4) 研究業績の概要（A4用紙2枚以内）
- (5) 今後の研究計画及び抱負（A4用紙2枚以内、説明図の利用可：これまでの実績を踏まえてどのような研究を行うか、応募者の考えを示すこと）
- (6) 推薦書（または、応募者について意見を伺える方2名の氏名と連絡先）

1 2. **書類提出先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
巨大災害研究センター 災害情報システム研究領域 教授候補者選考委員会 宛
（封筒の表に「教員応募書類在中」と朱書し、郵送の場合には書留にすること）

1 3. **応募締切**： 平成28年2月15日（月）【必着】

1 4. **選考方法**： 書類選考のうえ、必要に応じて面接を行います。面接等の詳細は、別途連絡します。

1 5. **問い合わせ先**：

〒611-0011 宇治市五ヶ庄 京都大学防災研究所担当事務室 気付
巨大災害研究センター 災害情報システム研究領域 教授候補者選考委員会 宛
e-mail:apply_staff@dpri.kyoto-u.ac.jp
（封書あるいは電子メールに限る）

1 6. **その他**：

応募書類に含まれる個人情報、選考および採用以外の目的には使用しません。
なお、京都大学は男女共同参画を推進しています。多数の女性研究者の積極的な応募を期待しています。

巨大災害研究センターの概要

1. 研究目的及び研究内容の概要

巨大災害研究センターは、巨大災害による被害の軽減に関する研究を、自然科学と社会科学を融合した視点から進めています。これは、近年の巨大災害が、自然のハザードに起因する直接被害のみならず、人生や生活の破壊、地域文化に対する打撃、経済被害など、間接被害をも甚大化させている点、すなわち、巨大災害が人間社会を破壊する点を踏まえたものです。

こうした視点にたって設置された巨大災害研究センターは、巨大災害過程研究領域、災害情報システム研究領域、災害リスクマネジメント研究領域、国際情報ネットワーク研究領域（外国人客員）、歴史災害史料解析研究領域（客員）、地域災害研究領域（客員）、以上6つの研究領域を有し、総合的、学際的、かつ長期的な視点に立った防災・減災研究を推進しています。

巨大災害過程研究領域

本研究領域の研究テーマは、「総合減災システムの確立と実践的防災学の構築」です。安全・安心な社会を実現するために、巨大災害による被害を軽減するための研究を、社会科学・自然科学を融合して行っています。特に、社会科学の立場からは、災害情報、防災教育、災害文化のあり方を提案し、真に「実践的な」防災学とは何かを探っています。

災害情報システム研究領域

社会現象としての災害学理の究明と、効果的な防災の実現を目標としています。とくに、災害発生前、発生時、および発生後の社会の対応を情報処理過程としてとらえて、効果的な被害軽減、災害対応、復旧・復興を可能にするための情報システムの開発と評価に関する研究を進めています。

災害リスクマネジメント研究領域

本研究領域は、巨大災害がもたらす被害の軽減を理工学と社会科学が協同して取り組むべき研究課題としてとらえ、そのための研究をリスクマネジメントの観点から行っています。また、この研究課題を、都市や地域、国土などの総合的なリスクマネジメントの一環と位置づけ、学際融合的かつ国際的な研究領域として発展させることを目的として多角的な研究を推進しています。

このほかに、下記の2つの客員部門と1つの外国人客員部門があり、上記の3研究領域でカバーできない研究領域を有機的に補完する活動を担っています。

歴史災害史料解析研究領域（客員）

地域災害研究領域（客員）

国際情報ネットワーク研究領域（外国人客員）

2. 現在の教員構成

平成27年12月1日現在の教員構成は以下のとおりです。

巨大災害過程研究領域：	教授 矢守克也 准教授 (選考中) 助教 (選考準備中)
災害情報システム研究領域：	教授 (今回公募) 准教授 (選考準備中)
災害リスクマネジメント研究領域：	教授 Ana Maria CRUZ 准教授 横松宗太
情報ネットワーク研究領域：	(外国人客員准教授) James D. Goltz
歴史災害史料研究領域：	(客員教授) 矢野桂司 (客員准教授) 八ッ塚一郎
地域災害研究領域：	(客員教授) 中谷内一也 (客員准教授) 西野智研

共同利用・共同研究拠点について

個々の大学の枠を超えて、大型の研究設備や大量の資料・データ等を全国の研究者が利用したり共同研究を行う「共同利用・共同研究」のシステム、全国共同利用研究所として、防災研究所は共同利用や共同研究を推進してきましたが、平成20年7月に創設された、文部科学大臣による「共同利用・共同研究拠点」の認定制度により、平成22年度からは、新たに「自然災害に関する総合防災学の共同利用・共同研究拠点」として共同利用・共同研究を推進しています。

なお、京都大学防災研究所の詳細は下記のホームページをご参照下さい。

<http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>

**Professor Position in the Disaster Information Systems Laboratory,
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University**

December 14th, 2015

The Disaster Prevention Research Institute (DPRI), Kyoto University invites applications for a permanent Professor position.

Location: Disaster Information Systems Laboratory, Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University, Gokasho, Uji, Kyoto 611-0011, Japan.

Job description and required qualification: The appointed professor is requested to conduct theoretical and practical research related to risk reduction caused by huge disasters, especially, from a perspective of disaster information systems sciences. He/she is requested to carry out interdisciplinary and international research on development and evaluation of disaster information systems, contributing to effective disaster preparedness, response, and recovery. He/she is also expected to contribute to education in the Department of Social Informatics, Graduate School of Informatics, Kyoto University. The successful applicant is expected to have a Ph.D. or its equivalent and to be proficient in Japanese.

Starting date: As soon as possible after the selection.

Working conditions: Working hours: 38 hours 45 minutes per week under full-time employment in a discretionary working system. Days off: Saturdays, Sundays, public holidays, Year-end and New Year holidays, University Foundation Day, and summer vacation.

Salary and benefits: To be determined in accordance with the existing employment regulations of Kyoto University.

Insurance: (1) Health and Pension Insurance covered by the National Government Employee's Mutual Aid Association. (2) Unemployment Insurance, and (3) Worker's Compensation.

Applicants should prepare the following material:

- (1) Curriculum vitae
- (2) List of publications (divided clearly into refereed journal papers and others)
- (3) Copies of five relevant papers
- (4) Brief summary of research and related contributions (up to two A4 pages)
- (5) Statement of research plans (up to two A4 pages, including figures)
- (6) Recommendation letters or names and contact information of two references (include

addresses, fax numbers, and e-mail addresses)

The complete application package must arrive by the deadline of Feb. 15th, 2016 (JST) at the following address:

Selection Committee for Disaster Information Systems Laboratory Professor
Administrative Office, Uji Campus,
Kyoto University
Uji, Kyoto 611-0011 JAPAN

For inquiries, send e-mail to apply_staff 'at' dpri.kyoto-u.ac.jp (replace 'at' with @)

For more information about DPRI, see <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/>.

Kyoto University is an equal opportunity employer.